

4 バリアフリーからユニバーサルデザインへ

バリアフリーからユニバーサルデザイン

『バリアフリー』とは、車椅子の障害者や足腰の弱った高齢者などにとって、日常生活上の障害となる様々な「障壁」を取り除くことです。物理的な「障壁」を取り除く事にとどまらず、偏見や社会生活上の不当な扱いなど心理的、社会的な「障壁」をなくすことも「バリアフリー」です。

障壁を取り除こうとする事後的な取組みが「バリアフリー」であるのに対して、「ユニバーサルデザイン」は、ものをつくる場合に最初から誰にでも同じように違和感なく、利用できるように設計しデザインしようという、いわば設計思想のようなものです。

一部の人のために特別なものを用意するのではなく、皆が「共用」できるものを初めからつくること、しかも、さりげなくて誰にも違和感なく利用できるものであることです。

暮らしの中のユニバーサルデザイン

視覚障害者の為に開発した、テレホンカードのくぼみが実はすべての人に使いやすいなど、下記の例はその一部です。すべての人に使いやすいデザインがユニバーサルデザインです。

↓ 入れる方向を示しているが、見えにくい



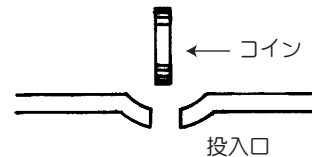
← 指でこの切り口を確認しながら入れると便利です。

▲ テレホンカードのユニバーサルデザイン



← コインの投入口が広がっていて、あわていても1枚ずつ確実に投入でき、便利です。

▲ 乗車券自動券売機のユニバーサルデザイン



▲ マジックテープ付きシューズのユニバーサルデザイン
片手でも簡単に脱着でき、便利です。



← ギザギザのあるのがシャンプー

▲ シャンプーのユニバーサルデザイン
目をつぶっていてもシャンプーとリンスの区別が可能で便利です。

住まいづくりにおけるユニバーサルデザイン



● 電動式
上下移動キッチン
ボタン1つでキッチン
の高さを上下できる。
車いす使用者だけでなく
いすに座りながらの作業
にも便利です。

▲ 20cmほど下げると、車いすでも使いやすい



▲ 立っている人が楽な高さは、車いす使用者には使いづらい



▲ 大きな操作盤
大きなスイッチは、見やすく押しやすいので便利です



▲ 広いスペースは、誰にでも使いやすい